

令和3年度 教育事業（指導者等養成研修事業） 青少年教育施設ボランティア養成講座（29年目）

1 事業概要

高校生・大学生・社会人がボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。講義では、体験活動の大切さやボランティア活動の意義などを知ることができた。また、演習を通して野外炊飯の仕方や安全管理に関わる技術を身に付けることができた。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画のポイント

法人ボランティアに講座の一コマを担当させ、ボランティア活動の経験等を伝えることで、参加者にとって、ボランティア活動の実際をイメージしやすいようにした。また、体験活動の推進やボランティア育成に関わってきた敷村氏や柴崎氏による講義を通して、ボランティア活動の意義や心構え、体験活動の重要性を深く考えられるようにした。さらに、普通救命講習や野外炊飯を通してボランティアに関わる技術も学べるようにした。

- 4 **主 催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 5 **後 援** 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・（株）愛媛新聞社
- 6 **期 日** 令和3年11月6日（土）～11月7日（日）
- 7 **場 所** 国立大洲青少年交流の家
- 8 **対 象** 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年（29歳以下）
- 9 **参加人数** 8名 高校生5名 大学生2名 社会人1名
- 10 **参加費** 2,940円
- 11 **講 師** 愛媛ボランティア学習研究会 事務局長 柴崎 あい 氏
えひめこどもの城 園長 敷村 一元 氏
大洲地区広域消防事務組合 大洲消防署員
国立大洲青少年交流の家 次長 水澤 豊子 事業推進係長 大藤 毅
事業推進係主任 田村 徹平 企画指導専門職 高木 啓吾

12 日 程

6日(土)	7日(日)
10:00-10:30 受付	6:30- 9:00 起床・検温・健康観察・朝食
10:30-11:00 開講式	9:00-12:00 [講義・演習]自然体験活動の安全管理
11:00-12:00 [講義・演習]ボランティア活動の技術①	12:00-13:00 昼食・休憩
12:00-13:30 昼食・休憩	13:00-14:30 [講義]ボランティア活動の意義
13:30-15:00 [講義]青少年教育	14:30-15:30 [講義]青少年教育施設の現状と運営
15:00-15:30 休憩・移動	15:30-16:30 [説明]青少年教育施設におけるボランティア活動②
15:30-18:30 [講義・演習]ボランティア活動の技術② (野外炊飯:カレー)	16:30-17:00 閉講式 解散
18:30-20:00 入浴・休憩	
20:00-21:00 [説明]青少年教育施設におけるボランティア活動①	
21:00 就寝準備・就寝	

13 活動内容

【1日目】

「ボランティア活動の技術①」では、アイスブレイクを行い、緊張をほぐしながら、交流を図った。敷村氏による「青少年教育」の講義では、体験活動への理解を深め、子供たちと関わる際のポイントを学んだ。「ボランティア活動の技術②」では、協力してカレーを作った。活動前には安全管理に関する研修を行い、危険予知に関する理解を深めた。「青少年教育施設におけるボランティア活動①」では法人ボランティアが今まで経験してきたボランティア活動の内容やそこから学んだことを参加者に伝えた。参加者は話をよく聞き、積極的に取り組む姿が見られ、有意義な時間を過ごすことができた。

【2日目】

「自然体験活動の安全管理」では、大洲地区広域消防事務組合消防署員から心配蘇生法や AED（自動体外式除細動器）の使用方法を学んだ。柴崎氏による「ボランティア活動の意義」では、参加者同士での協議も交えながら、意義や心構えについて学び、意欲を高めることができた。「青少年教育施設の現状と運営」の講義では、青少年教育施設の役割を知ったり、社会教育全般についての理解を深めたりした。「青少年教育施設におけるボランティア活動②」では法人ボランティアの登録制度や自然体験活動指導者（NEAL リーダー）について、職員が説明を行った。

14 参加者の声

事業後アンケート結果（高校生：5名 大学生：2名）

*満足：100% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

○自由記述欄（抜粋）

- ・ボランティアをする意義やこれから大切なことなど改めて学んだなと感じました。
- ・楽しい活動ばかりでこれから先ボランティアをしたいと思いました。
- ・人命救助の方法を知るだけでもとても良い経験になった。
- ・普段できないような貴重な体験がたくさんできた。
- ・内容がとても興味深いものだった。

15 事業の成果

それぞれの講義や演習の内容は、参加者にとって日頃経験する機会が少なく、貴重な経験になったようである。これらの活動を通して、ボランティア活動についての理解を深めるとともに今後のボランティア活動への意欲を高めることができたようだ。

16 事業の課題

それぞれの活動でもっと参加者同士が主体的に交流できる場面があるとより満足感のある講座になったのではないだろうか。今後は継続的にボランティア活動を行えるように、法人ボランティアとしての技術を高める場面を設けたり、適宜情報提供を行ったりしたい。

（担当：企画指導専門職 高木 啓吾）

